



Title	工業集積地域における階級・階層構造と労働—生活世界：はじめに
Author(s)	小内, 透
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 15, 1-2
Issue Date	1997-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/22612">https://hdl.handle.net/2115/22612</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	15_P1-2.pdf



## はじめに

本報告書は、産業の高度化が課題となりつつある工業集積地域を対象にして、産業基盤の変化に伴う階級・階層構造の再編のあり方を実証的に明らかにしたものである。具体的には、従来から農村部を後背地としてもちながら、自動車、電機、繊維等の諸産業が発達し、近年先端産業を始めとする多くの企業が進出している群馬県太田市を対象にして実施した地域階級・階層構造と住民の労働—生活世界に関する調査研究のまとめである。

ところで、現代日本の地域社会はグローバリゼーションやボーダーレス化の進展によって、地域性が不明確になり、共同性も解体してきている。そのため、実体としての地域社会そのものがとらえにくくなっている。それにともなって、地域社会を対象とする社会学的研究のあり方も変化し、近年、世界都市論や空間論といった新たな視点からの研究が増加している。これらの研究は、たしかに広い視点から地域社会を把握するという点で、地域社会研究にとって少なからぬインパクトを与えている。しかし、人々の日常生活が展開されている地域社会のあり方やそこにある具体的な課題を把握するという点では、必ずしも十分な成果をあげていない。そこでは、グローバルで広い視点と同時に、具体的な地域社会のあり方を捉えるローカルで深い視点が必要とされている。本報告書では、こうした問題意識に基づいて、地域社会のあり方を捉えるローカルで深い視点として、階級・階層構造に着目し、特定の地域社会の構造的特質と地域住民の労働—生活世界の一端を明らかにしようとした。

しかし、そこで問題となるのは、地域社会の階級・階層構造をどのように把握するのかという点である。それは、より一般的にいえば、現代日本における階級・階層構造の把握方法をめぐる問題といえる。実際、従来の経済一元論的なマルクス主義的階級論では、雇われ資本家の増大、ホワイトカラー層の増大、労働者の政治社会運動の低迷などの現実を的確に把握することが困難になってきている。同時に、社会移動論・社会成層論も社会的現実の変化を的確に把握しえていないといえる。それだけ、現代日本の階級・階層構造は見えにくくなっているといえる。こうした現実的理論的状况の中で、大きく変化する現実を把握しうる新たな階級・階層構造の把握方法が必要になっている。そのため、本報告書で階級・階層構造の視点から地域社会の構造的特質とその変化の一端を把握するに当たって、階級・階層構造の独自の把握方法を提示した。この点で、本研究は、現実の階級・階層構造の一端を浮き彫りにする意義をもつと同時に、従来の階級・階層論に対する方法論的な問題提起としての意義を持っている。

このように、本研究は階級・階層構造の視点から地域社会の現実を把握し、地域社会研究と階級・階層論に対して理論的な問題提起を試みようとする意図をもっている。そこには、一方で、階級・階層構造の視点から現段階における地域社会の構造的な特質の一端を明らかにし、他方で、現代日本社会において見えにくくなっている階級・階層構造のあり方を浮き彫りにするねらいが含まれている。

ただし、本報告書はいくつかの点で大きな制約をもっている。

まず、第一に本報告書の主たる分析材料が太田市に居住する有権者への郵送調査結果に限定されていることである。たしかに、郵送調査は太田市の階級・階層構造と地域住民の労働—生活世界の全体像を把握する上で、効果的な側面があった。しかし、階級・階層構造の視点から地域社会の構造的特質を十全な形で明らかにするためには、労働生活や地域生活に密着したよりインテンシブな調査研究が必要になる。そのため、郵送調査対象者のうち、一部の人たちの協力をえて、追跡的な面接調査も実施した。しかし、時間的制約のため、面接調査結果については、本報告書に盛り込むことができなかった。

第二に、この地域で大きな位置を占める外国人労働者が、調査の対象になっていないことである。太田市の隣町・群馬県大泉町が人口の1割を超える日系ブラジル人の住む町となっていること、太田市自体も実数でいえば大泉町を超える外国人労働者が居住していることを考えれば、本研究にはきわめて大きな限界があるといわざるをえない。

その意味で、本報告書は、もともとのねらいからいって、中間的な総括にとどまっている。時間的な制

約のため、この報告書には盛り込めなかったが、すでに郵送調査対象者の一部に対する面接調査を含め、太田市を対象にした別の調査を実施しているし、今後も継続的な調査研究を進めていく予定である。その意味で、残された課題については、今後を期したいと考えている。

なお、本報告書の構成は以下の通りである。まず第1章で、従来の階級・階層構造の把握方法の検討と新たな階級・階層構造の把握方法を提示し、第2章～第6章を調査結果の分析にあてる。そして、最後に、第7章として調査結果をふまえたまとめを行った。

(付記) 本報告書は、平成6年度から8年度の3ヶ年にわたって文部省から交付された科学研究費補助金(基盤研究B)(研究課題「地域産業の高度化に伴う階級階層構造の再編に関する実証的研究」、研究代表者・小内 透、課題番号06451029)にもとづく研究成果報告書である。